

大津市長殿

2008年度版
環境管理活動報告書



(株) 近畿分析センター

(対象期間：2007年4月1日～2008年3月31日)



目 次

1. 近畿分析センターの概要	1 頁
2. 環境方針	2 頁
3. 環境に関する認証及び認定	3 頁
4. 当社の事業運営	4 頁
5. 環境目的・目標と達成状況	
(1) 2007年度の達成状況	5 頁
(2) 主な環境負荷の推移	6 頁
(3) 2008年度の環境マシメツトプログラム	7 頁
6. 環境測定結果	8 頁
7. 教育・訓練活動	10 頁
8. 緊急事態想定訓練・テスト	11 頁
9. 地域貢献活動	12 頁
10. 連絡先	13 頁

1. 近畿分析センターの概要

ごあいさつ

株式会社近畿分析センターは、NECセミコンダクターズ関西の全額出資による関連事業として、昭和47年（1972年）2月に設立いたしました。

弊社は、NECセミコンダクターズ関西の開発研究部門で長年にわたり蓄積された化学分析・機器分析の技術と技術調査の情報により広く社会に貢献したいという念願で設立され、以来環境分析とエレクトロニクス関連の材料分析を主体として弛まぬ技術の研鑽を重ね今日に至っております。

ご高承の通り環境問題は人と地球の環境保全として世界的に注目され、環境の汚染・汚濁をはじめ新たな有害物質の分析、又労働衛生面の室内環境にかかわる測定等、益々多様化するニーズに対し、ご満足いただける情報提供に取り組んでおります。

一方、技術革新の急速に進む今日、ハイテクノロジーの研究開発、又品質管理・生産工程等を効率的に改善するための材料分析・評価による技術支援活動の必要性は益々高まっております。

弊社は材料分析等の機器分析技術と技術情報の調査等につきまして、長年蓄積されたノウハウを基に最新の先端技術を駆使し、問題解決の価値あるデータとしてご期待に添えるようご協力いたしております。

今後とも、高度な分析技術に対して積極的に挑戦し、機密を厳守して信頼ある情報を迅速にご提供することをモットーに誠意をもってお応えする所存でございます。

一層のご活用、ご支援を心からお願い申し上げます。

代表取締役 仙波謙三

● 名 称 : 株式会社 近畿分析センター

● 所在地 : 〒520-0833 滋賀県大津市晴嵐二丁目9番1号

TEL 077-534-0651、 FAX 077-533-1604

● 設 立 : 1972年2月 (NECセミコンダクターズ関西株式会社より分離独立)

● 業 務 内 容 :

1. 分析事業

○環境計量証明（濃度、騒音・振動、特定濃度（DXN））

○作業環境測定

○建築物飲料水水質検査

○土壌汚染状況調査

○各種製品・材料の分析評価

2. コンサルティング事業

○環境マネジメントシステムに係わるコンサルティング

○品質マネジメントシステムに係わるコンサルティング

2. 環境方針（環境理念と6つの行動指針で構成）

【環境理念】

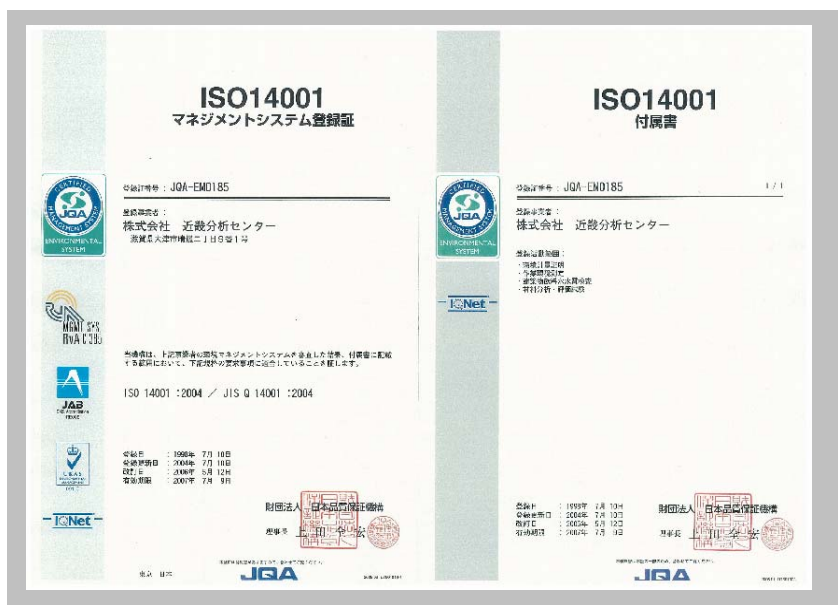
自然のいとなみを尊重した環境マネジメントシステムを展開し、環境にやさしい事業活動と地球環境保全のための信頼される技術とサービスの提供を行います。

【行動指針】

- （1）環境動向をすばやく入手し、環境に与える影響を考慮した分析技術の開発に努め、価値ある分析とサービスの提供をする。
- （2）環境マネジメントシステムに基づき、事業活動における省資源、省エネルギー、廃棄物削減等の環境保全活動を展開し、継続的改善と環境汚染の未然防止を図る。
- （3）環境関連法令、条例、諸規制及び当社が同意したその他の要求事項を遵守し自主管理基準を設定する。
- （4）環境目的、目標を設定しそれらを達成するための活動計画を策定し実行し定期的な見直しを行う。
- （5）環境方針を文書化し、当社で働くまたは当社のために働く全ての人に周知徹底すると共に環境教育を計画的に実施し、意識向上を図り環境マネジメント活動を展開する。
- （6）環境方針の積極的な公開と環境保全活動への提案を通じて、社会に貢献する。

3. 環境に関する認証・認定

◇環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を1998年7月に取得いたしました。
また、2008年7月に定期審査に合格いたしました。



◇ダイオキシン類環境測定の品質システムに関する認定等

☆平成18～20年度の環境省受注資格審査に合格（2006年3月）
（一般環境大気、公共用水域水質、地下水質、土壌、底質、排出ガス、排出水、焼却灰その他の燃え殻及びばいじん、作業環境）

☆ 特定計量証明事業（MLAP）の認定取得（2002年7月）
（認定区分大気中のダイオキシン類、水又は土壌中のダイオキシン類）
2008年6月にはMLAP 更新審査に合格



4. 当社の事業運営

循環・共生型社会の実現に向け、良き企業市民として、また分析事業者として、当社が果たすべき二つの社会的責任（CSR）を遂行します。事業運営としては、環境経営を目指して、①環境負荷低減活動 ②製品・サービスによる環境改善ソリューション提供の2つに注力します。

当社が果たすべき二つのCSR

良き企業市民として

事業の実施に伴う
環境負荷を低減する
活動を透明性をもって
展開すること

分析事業者として

公正かつ信頼性ある
試験結果を適正な価格で
より迅速に提供し
社会に貢献すること

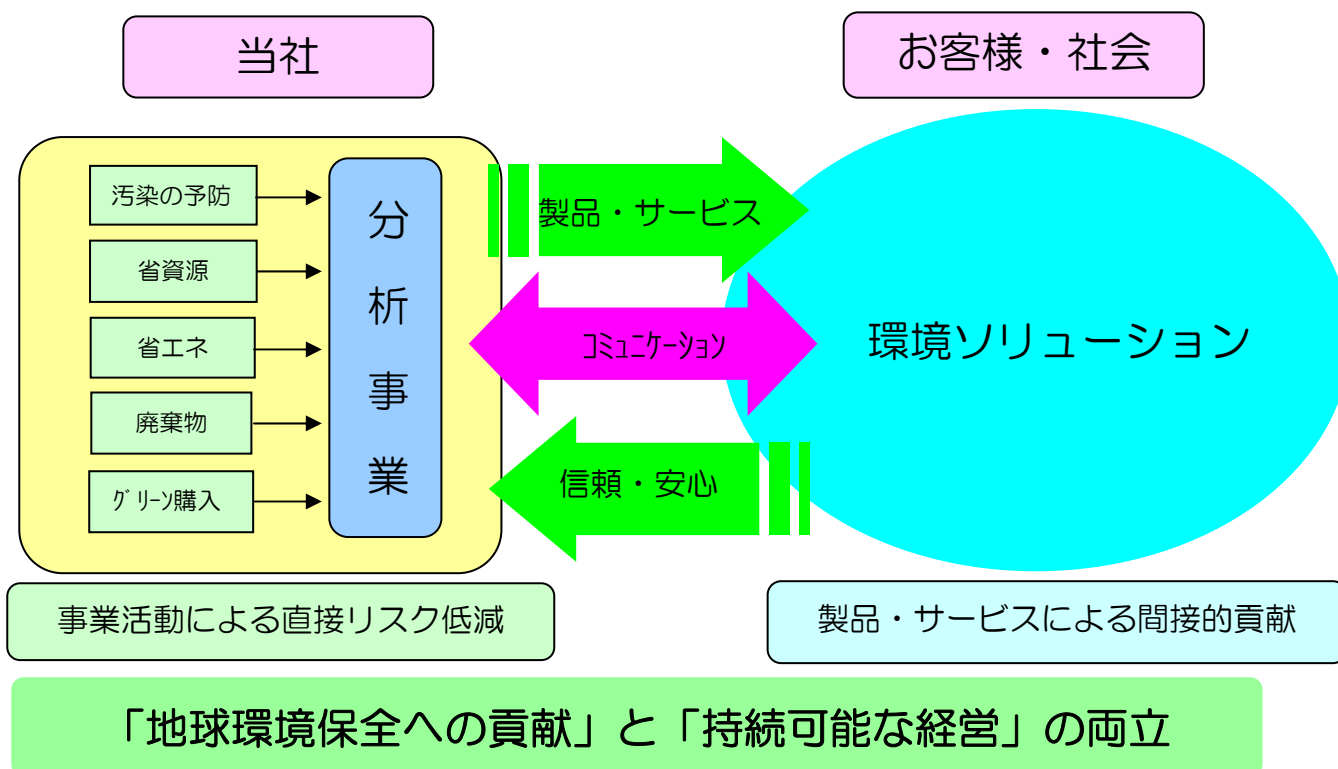


図1 当社の環境ソリューション事業

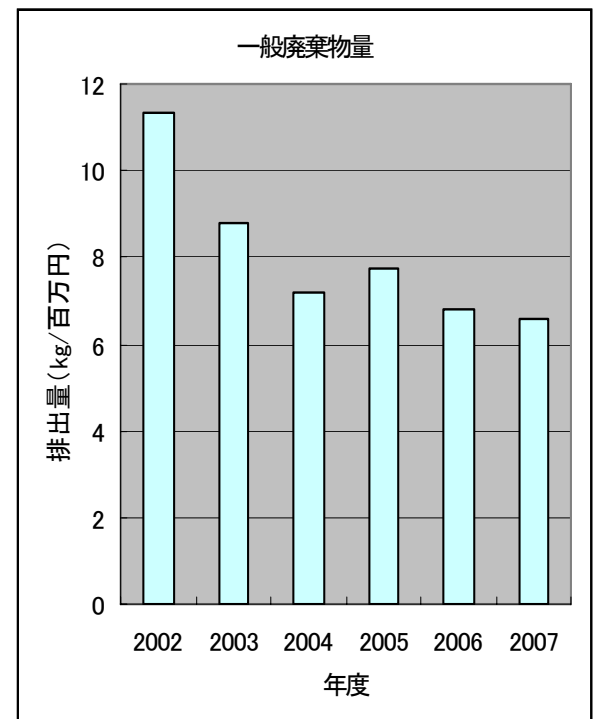
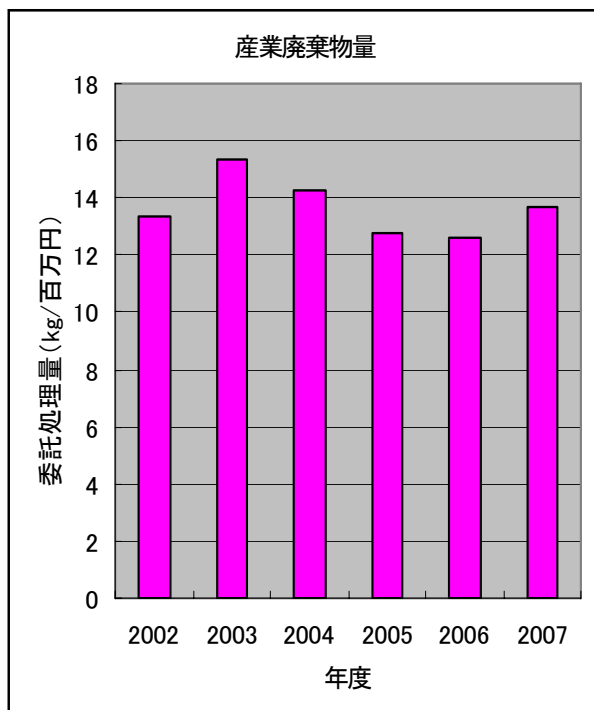
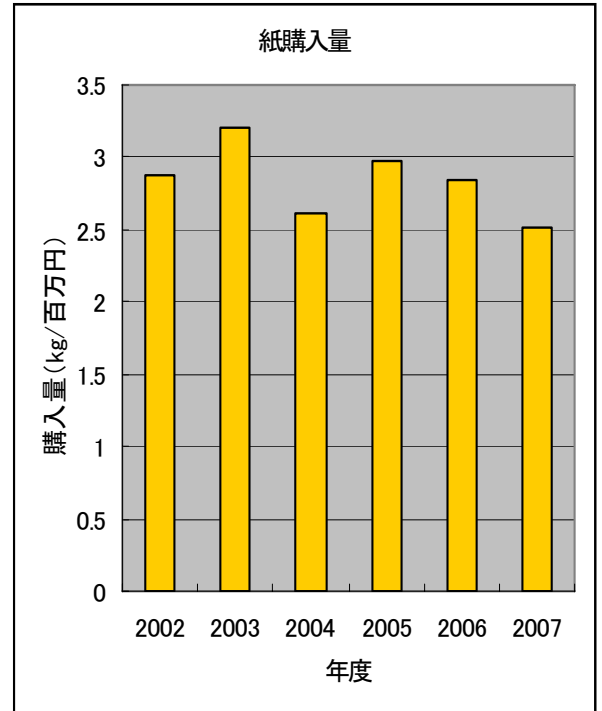
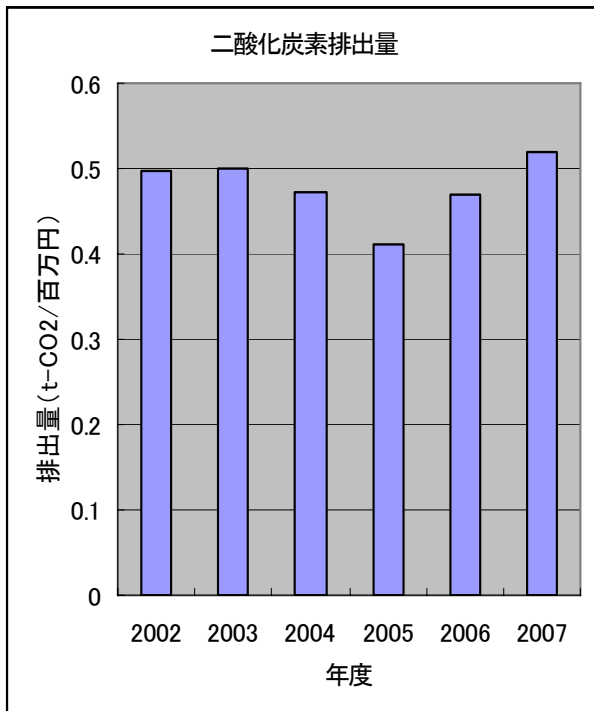
5. 環境目的・目標（抜粋）

（1）2007年度の達成状況

環境目的の項目	管理項目	目標値 (環境目標)	実績	評価	実施内容と成果、 増加時の理由等
事業活動による環境負荷低減活動					
環境汚染の防止 (排出の監視)	顕在する 不適合の件数	0件/年 〔累計〕	0件/年 〔累計〕	A	排出点での定期的な 監視データのフィードバック
省エネルギー	二酸化炭素 排出量 (売上高原単位)	〔前年比増加 のないこと〕	0.47t-CO ₂ (年、売上百万円) 前年比 11%増	B	受注増加に伴う、休日、 夜間の稼働及び厳冬の 影響により電気使用量 が増加
省資源	紙使用量 (売上高原単位)	〔前年比増加 のないこと〕	2.52kg (年、売上百万円) 前年比 11%減	A	電子化及び、裏紙活用、 両面、縮小印刷の促進
廃棄物削減	産業廃棄物 処理委託量 (売上高原単位)	〔前年比増加 のないこと〕	12.6kg (年、売上百万円) 前年比 11%増	B	必要最小限の試料入手活 動は定着しているが受注 増加の影響により増加し た
	一般廃棄物 排出量 (売上高原単位)	〔前年比増加 のないこと〕	6.56kg (年、売上百万円) 前年比 3%減	A	プリントミスの低減や 縮小印刷による紙使用 量の削減及び情報の電 子化促進
製品・サービスによる間接的貢献を強化する活動					
新規分析評価 技術の拡充	導入件数	2件/年 〔累計〕	2件/年	A	土壌調査の内製化推進 とDXN分析の短納期 化の実現
環境ソリューション の提供	環境に関す る情報提供 の実施	3回/年 (累積)	3回/年	A	環境に関するセミナー や工業高校での出前 授業の実施。また環境 ビジネス Messeへの出展を 行った
	ソリューション 提供人材育 成件数	20人/年 (延べ人数)	26名/年	A	国家資格に8名が合格 し、外部セミナーへは のべ18名が受講
業務効率の改善	提案件数	80件/年	107件/年	A	業務効率改善を中心に 報告書納期短縮化に取 り組んだ

評価基準 A：目標達成率 100%以上、B：目標達成率 75%以上 C：目標達成率 75%未満

(2) 主な環境負荷の推移



(3) 2008年度の環境マネジメントプログラム

環境目的の項目	管理項目	目標値 (環境目標)	具体的施策
事業活動による環境負荷低減活動			
排出の監視と異常の流出防止	顕在する不適合の件数	0件/年 〔累計〕	排水、排ガス処理施設の定期点検結果の確実なフィードバックによるアクションラインでの早期是正。
省エネルギー	二酸化炭素排出量削減施策実施件数	具体的施策の実行	省エネ型天井灯、省エネ型エアコンの導入、各 CO2 削減活動への参画
製品・サービスによる間接的貢献を強化する活動			
新規分析技術の拡充	導入件数	2件/年 〔累計〕	環境分析を中心とした新規分析技術の導入
環境ソリューションの提供	環境情報提供活動	5回/年 (累積)	環境情報提供セミナー等の開催等 ①セミナー、勉強会の開催 ②びわ湖環境ビジネスメッセへの出展
	ソリューション提供人材育成件数	20人/年 (累積)	環境関連資格試験の取得及び各種講習会へ受講。
業務効率の改善	提案件数	80件/年 (累積)	ムダ取り活動を推進の中で、生産性の改善だけでなく、省エネ、省資源の改善活動の提案を推進。

6. 環境測定結果

(1) 放流水の測定結果(2007年度)

測定項目	測定頻度	規制基準値	自主管理基準値	平均測定値	評価	
有害物質	カドミウム及びその化合物	1回/月	《0.01》	0.002	<0.001	○
	シアン化合物	1回/月	《0.1》	0.02	<0.01	○
	有機磷化合物	1回/年	不検出(<0.1)	不検出(<0.1)	<0.1	○
	鉛及びその化合物	1回/月	0.1	0.02	<0.01	○
	六価クロム化合物	2回/年	0.05	0.02	<0.01	○
	砒素及びその化合物	1回/月	0.05	0.01	<0.01	○
	水銀及びその化合物	1回/月	0.005	0.0010	<0.0005	○
	アルキル水銀化合物	1回/年	不検出(<0.0005)	不検出(<0.0005)	<0.0005	○
	ポリ塩化ビフェニール	1回/年	0.003	0.0010	<0.0005	○
	トリクロロエチレン	1回/月	0.3	0.002	<0.001	○
	テトラクロロエチレン	1回/月	0.1	0.0010	<0.0005	○
	四塩化炭素	1回/3月	0.02	0.0010	<0.0005	○
	ジクロロメタン	1回/3月	0.2	0.04	<0.02	○
	1,2-ジクロロエタン	1回/3月	0.04	0.008	<0.004	○
	1,1,1-トリクロロエタン	1回/月	3	0.002	<0.001	○
	1,1,2-トリクロロエタン	1回/3月	0.06	0.012	<0.006	○
	1,1-ジクロロエチレン	1回/3月	0.2	0.04	<0.02	○
	シス-1,2-ジクロロエチレン	1回/3月	0.4	0.08	<0.04	○
	1,3-ジクロロプロパン	1回/3月	0.02	0.004	<0.002	○
	チウラム	1回/年	0.06	0.012	<0.006	○
	シマジン	1回/年	0.03	0.006	<0.003	○
	チオベンカルブ	1回/年	0.2	0.04	<0.02	○
	ベンゼン	1回/3月	0.1	0.02	<0.01	○
	セレン	1回/年	0.1	0.02	<0.01	○
	弗素含有量	2回/年	8	<0.5	<0.5	○
	ホウ素含有量	2回/年	10	0.2	<0.1	○
アンモニア、アンモニア化合物等	1回/月	100	—	0.52	○	
有害物質以外	水素イオン濃度	1回/月	6.0~8.5	6.0~8.5	7.6	○
	生物学的酸素要求量	1回/月	《90》	16	4.8	○
	化学的酸素要求量	1回/月	《90》	9.0	3.6	○
	浮遊物質	2回/年	《90》	2.0	<1.0	○
	ノルマルヘキサン抽出物質	2回/年	《5》	1.0	<0.5	○
	フェノール類含有量	2回/年	《1》	0.02	<0.01	○
	銅含有量	2回/年	《1》	0.10	<0.05	○
	亜鉛含有量	2回/年	《1》	0.10	<0.05	○
	溶解性鉄含有量	2回/年	《10》	0.20	0.07	○
	溶解性マンガン含有量	2回/年	《10》	0.10	<0.05	○
	クロム含有量	2回/年	《0.1》	0.02	<0.01	○
	大腸菌群数	2回/年	《3000》	100	0	○
	アンピシリン含有量	2回/年	《0.05》	0.02	<0.01	○
	窒素含有量(総和法)	1回/月	《60》	4.0	0.72	○
	燐含有量	1回/月	《8》	0.40	0.13	○

注1) 単位は大腸菌群数が個/cm³、その他がmg/Lである。

注2) 規制基準値は、「水質汚濁防止法第3条第1項の規定」、「水質汚濁防止法第3条3項の規定に基づく排水基準を定める条例第2条の規定」、「滋賀県公害防止条例第9条第1項第1号の規定」に基づくものである。また《 》の測定項目は、当社の規制対象外である。注3) 評価欄の○印は平均測定結果が自主管理基準値以下であることを示す。

(2) 排ガス測定結果 (2007年度)

測定施設	測定項目	測定頻度	単位	自主管理 基準値	平均 測定値	評価
廃ガス洗浄装置 No. 1	硫酸	2回/年	mg/m ³ N	5	1	○
	硝酸	2回/年	cm ³ /m ³ N	50	<1	○
	塩化水素	2回/年	mg/m ³ N	5	<1	○
	弗素及びその化合物	2回/年	mg/m ³ N	1	<0.1	○
廃ガス洗浄装置 No. 2	硫酸	2回/年	mg/m ³ N	5	<1	○
廃ガス洗浄装置 No. 3	硫酸	2回/年	mg/m ³ N	5	<1	○
	硝酸	2回/年	cm ³ /m ³ N	50	<1	○
	塩化水素	2回/年	mg/m ³ N	5	<1	○
	弗素及びその化合物	2回/年	mg/m ³ N	1	<0.1	○
廃ガス洗浄装置 No. 4	硫酸	2回/年	mg/m ³ N	5	<1	○
	硝酸	2回/年	cm ³ /m ³ N	50	<1	○
	塩化水素	2回/年	mg/m ³ N	5	<1	○
	弗素及びその化合物	2回/年	mg/m ³ N	1	0.1	○
有機ドラフト No. 1	ジクロロメタン	2回/年	cm ³ /m ³ N	40	<1	○
	ベンゼン	2回/年	cm ³ /m ³ N	1	<1	○
	臭気指数	2回/年	—	30	<10	○
有機ドラフト No. 2	ジクロロメタン	2回/年	cm ³ /m ³ N	40	<1	○
	ベンゼン	2回/年	cm ³ /m ³ N	1	<1	○
	臭気指数	2回/年	—	30	<10	○
有機ドラフト No. 3	トルエン	2回/年	cm ³ /m ³ N	80	<1	○
	ジクロロメタン	2回/年	cm ³ /m ³ N	40	<1	○
	臭気指数	2回/年	—	30	<10	○
有機ドラフト No. 4	トルエン	2回/年	cm ³ /m ³ N	80	<1	○
	ジクロロメタン	2回/年	cm ³ /m ³ N	40	<1	○
	臭気指数	2回/年	—	30	<10	○

注 1) いずれの施設とも規制対象設備ではないため規制基準は適用されない。

注 2) 評価欄の○印は平均測定結果が自主管理基準値以下であることを示す。

7. 教育・訓練活動

従業員一人ひとりの環境管理に関する自覚と必要な知識及び技能の修得のため、環境マネジメントシステムに基づく教育・訓練活動を積極的に展開しています。

◇環境マネジメント教育・訓練活動の種類と目的

教育・訓練の種類	目的
環境マネジメントシステム教育	環境方針・目的目標・ISO14001の要求事項に適合することの重要性を自覚
著しい環境影響の可能性のある作業の要員への教育・訓練	日常業務を行うために必要な薬品取扱、排水処理、排ガス処理、廃棄物処理に関する遵守事項の徹底
著しい環境影響の原因となりうる作業の要員への教育・訓練	薬品管理、排水処理施設運転、排ガス処理施設運転、廃棄物管理の担当者および責任者への必要な知識と技能の修得
社外講習会・セミナー	環境問題に関する幅広い見識の修得と人的交流の推進
環境関連資格の取得推進	法的に必要な資格者養成のみでなく、お客様への環境に関する適切な支援ができる人材の養成

8. 緊急事態想定訓練・テスト

環境影響評価に基づき特定した環境緊急事態を想定し、定期的な対応訓練及びテストを関係会社と共に実施し、リスク削減に努めています。



初期対応（廃液の流出阻止）

【想定】

特別管理産業廃棄物のタンク運搬時に落下破損し廃液が流出

【対応手順】

初期対応（流出阻止）



連絡（連絡ルートによる）



回収作業



復旧確認



処理担当者召集



回収作業

H20.3 産業廃棄物流出を想定した対応訓練・テストの状況

9. 地域貢献活動

環境ボランティア活動を自主企画・実施するとともに行政や地域が主催する環境ボランティア活動にも積極的に参加しています。

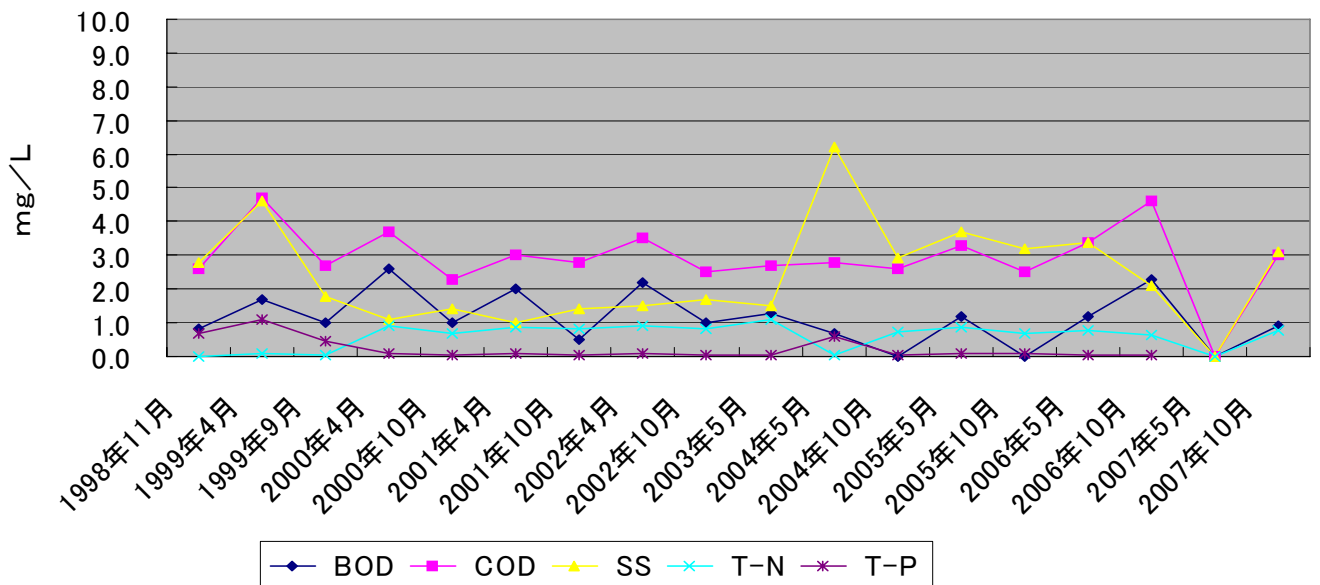
また、事業所前を流れる一級河川（盛越川）の水質を自主的にモニタリングしています。



H19.11 烏丸半島周辺清掃（自主企画）
（家族含め26名参加）



H20.1 琵琶湖ヨシ刈り（大津市主催）
（家族含め21名参加）



盛越川水質モニタリング（採水）

10. 連絡先

株式会社 近畿分析センター

担当部門：環境管理課

〒520-0833

滋賀県大津市晴嵐二丁目9番1号

TEL 077-537-7581

FAX 077-533-1604

ホームページアドレス <http://www.kbc-em.co.jp>